

・誰でもわかる がん講座・E1

・がん治療別の食事のヒント・

【化学療法】

抗がん剤により悪心・食欲低下・口内炎・味覚異常・下痢などさまざまな副作用があらわれる場合があります。副作用は一定期間（一過性）のことが多いため、過剰な心配はせず、症状出現時は食べられそうなものを、食べたい時に無理なく食べることが大切です。

【放射線治療】

口腔、咽頭、食道など食べ物の通り道に対する照射の場合、つかえ感で食べ物をうまく飲み込めなかつたり、食べ物が沁みて痛みを感じことがあります。刺激物を避け、柔らかく料理したものを少しずつ食べるとよいでしょう。また、栄養補助食品（高カロリーのゼリーやドリンク）の利用もお勧めです。

【外科治療（手術）】

特に胃や腸の手術の場合、術後の腸閉塞予防のためにもよく噛んで食べることが大切です。食べてはいけない物はありませんが、消化のしにくい食べ物（海藻、きのこ、こんにゃく、白滻など）は一度に大量に食べることは避けた方がよいでしょう。

治療による食事の悩みは患者さんによってさまざまです。当院ではがんと栄養に関する専門家「がん病態栄養専門管理栄養士」の資格を持つ管理栄養士がおりますので、より具体的な食事と栄養の相談をご希望の際にはスタッフへお声掛けください。

栄養科 安部 訓子